

< 目 次 >

提言要旨	1
○ はじめに	2
第1章 孤立する高齢者とは	3
1 孤立する高齢者	
2 高齢者の状況	
3 実例の紹介（A市の状況）	
第2章 高齢者に対する現在の取組事項	8
1 行政の関わり	
2 社会福祉協議会等の関わり	
3 地域住民の関わり	
第3章 「孤立化」する高齢者に関する問題点・課題について	10
1 問題点の整理	
2 問題点から見えてくる課題	
第4章 具体的な構想・施策	11
1 孤立高齢者の的確な把握方法	
2 見守りネットワークシステムの構築	
○ おわりに	14

提 言 要 旨

～孤立化する高齢者への対策について～

現代社会において、高齢者を取り巻く環境は大きく変化し、“孤独死”や“所在不明高齢者”などが社会問題となっている。一人暮らしに関わらず、社会や家庭から孤立する背景を調査し、地域資源を有効に活用することで、高齢者を孤立させることなく把握・支援する方策は何かを提言していきたい。

【現状】 高齢化の進行、人間関係の希薄化、また高齢者虐待の増加などで、家庭や地域から孤立してしまう高齢者が増加している。行政や社会福祉協議会等で、介護保険を始めとする様々な取り組みが行われているが、申請主義であることや、自主的に行動できる人に対する支援や参加型のものが多いため、本来支援を必要とする人ではあるが、申請の煩わしさ、支援策等の情報不足、引きこもりなどにより、十分な支援が行われていない状況である。

【課題】 孤立する高齢者の実態把握に努め、問題が発生する前に、あるいは重篤化する前に、積極的にかかわる予防的なアプローチを重視し、継続的に支援していく**発見機能と見守り機能**を、行政・各種団体・地域住民とが連携し創り上げることが重要となっている。

提言 1：孤立高齢者の的確な把握方法

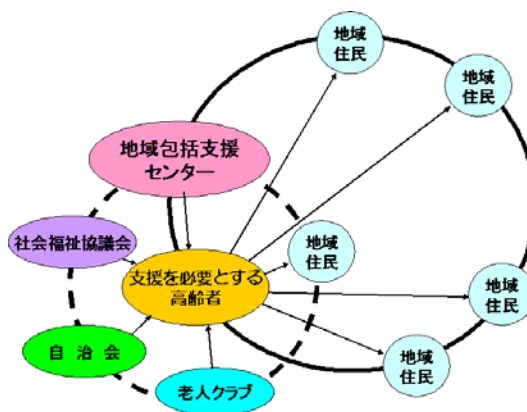
- 高齢者の生活実態調査による把握
- 敬老の祝い等による把握
- 医療保険等の利用状況による把握

提言 2：「双方向のネットワーク」の構築

支援を必要とする孤立高齢者が、サービス提供事業者や地域から一方的に支援を受けるだけでは、真に孤立化した状態から脱却したとは言えない。そのようなことから支援を必要とする孤立高齢者が、自らの意思で社会参加を行うことができるよう、行政、地域資源、地域住民が相互に関係を構築し、支援する側もされる側も対等な存在となり、真の自立・自己実現を図ることを目指す「双方向のネットワーク」を構築する。

「双方向のネットワーク」イメージ

地域社会の一員として、支援を必要とする者も他の住民と同格の立場で社会に関わりを持つ。



【効果】

住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らして行くことが可能となる。